

「2023年度国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学部1年 東楨 志斗

①まず今回このプログラムに参加した理由は大きく分けて3つあり、台湾の歴史文化を学ぶこと、中国語を実際に用いることができるようになること、3年次後期から予定している交換留学に向けて海外生活の練習をすることでした。

まず一つ目に台湾の歴史文化についての学習について、台湾国立博物館を訪れ台湾の歴史や環境問題を学習したほか、立法院を特別に見学させていただいたり、議員事務所まで議員秘書の方とお話ししたりして台湾の政治について学習しました。また、プログラム内でも故宮博物院を訪れたり、台湾の現代における社会問題に関する講義を受けたりして、幅広く台湾の文化や歴史について学習することができました。個人的には台湾における食文化にとっても興味があったので、台湾茶に関する講義や、台湾における祭典とその際に供される食事について学習し実際に調理を行う講義、また宜蘭への One Day Trip で蔥油餅を作ったことがとても印象に残っています。

2つ目に中国語に関して、京都大学で面接を受けた時は本当に全く話すことができなかったが、現在では簡単な質問であれば返答ができ、街中で中国語のみを用いて買い物をできるレベルになりました。渡航中には、台湾大学のサークルが開催していた台日語言交換會に参加させていただき、現地の学生と言語交換を行いました。また、プログラムにおける期末報告では中国語で5分間のプレゼンを参照なしで行うことができました。まだ中国語のみで問題なく日常生活を送ることができるレベルには達していませんが、簡単なコミュニケーションを取れるようになったので個人的な目標は達成できたと思います。

3つ目に海外生活の練習について、生活面においては全く問題ないと感じました。むしろそれ以上に言語(英語)の壁を大きく感じました。英語を用いて議論したり会話したりする機会が度々ありましたが、相手が話していることは理解できても、そこから自分の考えを英語で返すのがとても難しかったです。これは交換留学に出発するまでに解消する必要があるので、今後の大学の学習では英語を用いる科目を履修するなど、留学生と交流する機会を積極的に増やしたいと思います。

プログラムと直接関係することではないですが、プログラム参加者と日本の教育や政治に関して議論することが度々ありました。留学に参加するような層であることもあって、とても新鮮な考え方に触れることができた一方、まだ私は日本についてあまり理解できていないと再認識させられました。これから日本について深く学んでいこうと思います。

②平日午後に予定がなければ台北市内を観光しました。週末は台北市街地から離れて観光に行きました。1週目は九份・十分へ、2週目は高雄へ、3週目は猫空へ行きました。

プログラムと直接関係しないので詳細は省略しますが、現地で知り合ったプログラム参加者や、京大からの参加者との仲を深めるきっかけになりました。

③プログラムでは平日の午前中、3時間の中国語の授業を受けます。中国語履修歴のある人は渡航前に台湾大との面接を経て、レベル別にクラス分けされます。未履修者はA班、履修者がB～E班です。今回の京大からの参加者はA～C班に割り当てられました。私はB班で、授業は日本で受けていた授業より文法などの難易度は低いものの、講師も生徒も基本的に中国語のみを用いることになっていたため、言語を実際に使えるようになることに焦点を当てていると感じました。中間考査と期末考査、期末報告(中国語でのプレゼン

テーション)があり、4技能全てを習得する必要があります。午後は週2回程度、台湾の文化や歴史を学ぶ講義や体験学習の機会があります。それと別に週2回程度、Tutor Stationがあり、クラスごとに割り当てられた学生アドバイザーと課題に取り組んだり、中国語のゲームをしたりして、中国語を実践的に学習することができました。

④進路への影響としては、進学を希望している工学研究科都市環境工学専攻と清華大学とのダブルディグリープログラムを検討するに至りました。今回のプログラムで学習した中国語を活用しながら専門教育を受けられることに強い魅力を感じました。まだ先の話ではありますが、せっかくの機会なので可能な限り中国語の学習を続け、実現できるように努力したいと思います。